

北海道師範塾  
「教師の道」

塾頭通信

第597号 平成25年8月21日

## シンドラーのリスト

第2次世界大戦中、ドイツ人実業家の故オスカー・シンドラー氏がナチスの強制収容所行から救ったユダヤ人の名前を記したリストが、米競売サイト「イーベイ」に出品されたとの報道がありました（7月21日付朝日新聞）。

このリストは「シンドラーのリスト」と呼ばれているもので、「イーベイ」によると、1945年4月18日付で14頁にわたって801人の氏名等が記されているそうです。

最低入札価格は300万ドル（約3億円）で7月28日に競売が行われている筈ですが、実際に幾らの値が付いたのかは分かりません。

シンドラーという人は、1908年にオーストリア帝国の一部であった地方の小さな工業都市モラヴィタウに生まれています。彼は1930年代に入るとコンラート・ヘンライン率いるスデーデン・ドイツ党のハーケン・クロイツ（鉤十字）を付けていたといえます。1938年、シンドラーが30歳の時、ヒットラーの軍隊がチェコスロバキアに侵攻、この頃から彼にとってナチスは好ましい存在ではなくなり始めた様です。更にその1年後、ヒットラーはポーランドに侵攻、その直後にシンドラーは戦争を利用してひと儲けを目論みクラクフにやってきます。

シンドラーは、お金を儲けるためにドイツ人将校らに取り入りながら事業の拡大を図るのですが、やがてクラクフ・プワシュフ強制収容所で多数のユダヤ人が虐殺されている事を知り、ナチの狂気からユダヤ人を救う事を決意します。そして、1100人余りのポーランド系ユダヤ人を、自分が経営する軍需工場にとって必要な生産力だという名目で、強制収容所行きをストップさせて救う事に成功します。その際作成されたリストが「シンドラーのリスト」と呼ばれているもので、今回競売に付されたものはその中の1冊です。

なお彼は、終戦直後妻と共にポーランドからの脱出を図りますが、その際8人のユダヤ人有志が同行し、2人の護衛に当たったといわれています。

私が、「シンドラーのリスト」の存在を知ったのは、今から20年前になりますが、1993年に同名の映画が製作された事がきっかけです。

この映画の原作は、オーストラリアの作家トーマス・キニーリが書いた「シンドラーズ・リスト」です。

キネーリは、アメリカ旅行の途中で「シンドラーのリスト」に載ってアウシュビ



ッツから生還した人物（「シンドラーの生き残り」と称されています）からシンドラーの話を聞いた時、その事実に大きな衝撃を受け、これを小説に書き上げる決意をしたそうです。

一方、この映画の監督は、ジュラシック・パークでも有名なスティーヴン・スピルバーグ監督です。彼は、なぜ「シンドラーのリスト」を映画化しようとしたか。それは、彼自身がユダヤ系アメリカ人だったからで、彼の親戚の中にはナチスの収容所で命を落とした人もいたそうです。

私は、この映画を見た時に、人間というものは、底なしの悪魔になれる存在なのだという事を強く感じました。映画では、収容所の所長が、自宅のベランダから面白半分にライフルで囚人を何

人も撃ち殺す場面が出て来ます。それはまるで狩猟を楽しんでいる風情です。そして、強制収容所では、もっと残酷な事が日常茶飯に行われていました。この異常さは、人間の狂気としかいいようがありません。

狂気という泥沼にどれ程多くの人間達が沈んでいった事でしょうか。しかし同時に、この映画は、狂気の中から人間を救う事が出来るのもまた人間だという事を示しています。

如何に悲惨で、混乱した状況の中でも、人間性を失わず、狂気に立ち向かう、少なからずそうした人間が存在したという事実は、私達に勇気を与えてくれます。

シンドラーはナチスの協力者でした。そうした立場にいた彼を批判する人もいると思います。しかし、たとえナチスの協力者という立場であったとしても、むしろ、そういう立場にありながらユダヤ人を助ける為に命がけで行動したその勇気は、並大抵ではありません。

シンドラーは、自身について「私が聖者だなどとはとんでもない話で、私はむしろ節度のない人間で、行い正しく生きている大多数の普通の人に比べてはるかに多くの欠陥を持っている」と述べています（ミーテク・ペンパー著「救出への道」から）が、しかし、「彼の偉大な功績は、彼が文字通り全財産を投げ出して、1100人以上もの命を救ったことにある（同著から）」というのは、万人の認めるところだと思います。

スピルバーグ監督が、「シンドラーのリスト」を映画化しようとしたのは、「人間の狂気」と、「極限の中で人間性を失わなかった一人の人間の存在」という、その二つを歴史の彼方へと風化させてはならないと考えたからではないかと思います。しかし現代人は、20世紀の狂気と悲惨からどれ程の教訓を得ているのでしょうか。

映画が製作されて以来20年経った今も、地球のどこかで様々な狂気がはびこっている現実から、私達は目を遠ざけてはならないと思います。（塾頭：吉田 洋一）